

加速度脈波(APG)で、血管老化度測定 心拍間の変異(HRV)で、ストレス分析

判定の見方

1 ストレス分析

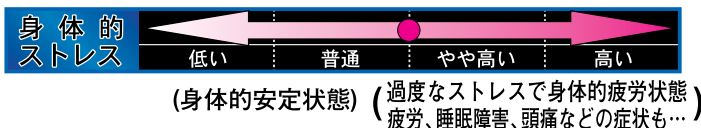


■心拍間変異分析=HRVとは
心拍間の微細な変化を利用して、自律神経の活性度および交感神経・副交感神経の均衡状態を分析。ストレスへの対処能力や自律神経異常による状態がチェックできます。

測定項目

- ① 身体的ストレス ⇨ 疲労度
- ② 精神的ストレス
- ③ ストレス対処能力
- ④ 交感・副交感神経の均衡度
- ⑤ ストレス点数

① 身体的ストレス ⇨ 疲労度

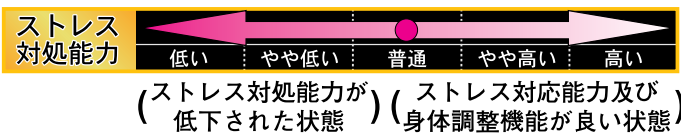


② 精神的ストレス

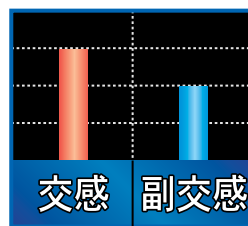


③ ストレス対処能力

ストレス及び環境の変化に反応する対応能力を表現



④ 交感と副交感の均衡度



均衡状態：情緒的安定状態
(通常、交感と副交感の比率が 6:4が均衡状態を意味する。)

不均衡状態：交感及び副交感が過度に高い場合
交感が高い ⇨ 一時的興奮またはストレス状態
副交感が高い ⇨ 情緒的に安定状態と言えるが、かなり高い場合は、うつ、だるい、無気力などの状態

⑤ ストレス点数 (0~100点)

ストレスに対する健康状態を総合的に点数で表現
点数が高いほど過度なストレス状態を表現

2 血管老化度



■加速度脈波計=APGとは
加速度脈波を測定し、末梢細動脈の血流動態を分析して、拍出強度・血管弾性度・残血量等血流状態を確認し、血管老化度を測定します。

測定項目

- ① 血管老化度
- ② 血管年齢

① 血管老化程度



② 血管年齢

血管老化程度を基に血管の状態を年齢として表現
血管状態及び血液循環状態が良いほど血管年齢は低く表現

本器は非医療ですので、医学的診断については、医師にご相談下さい。